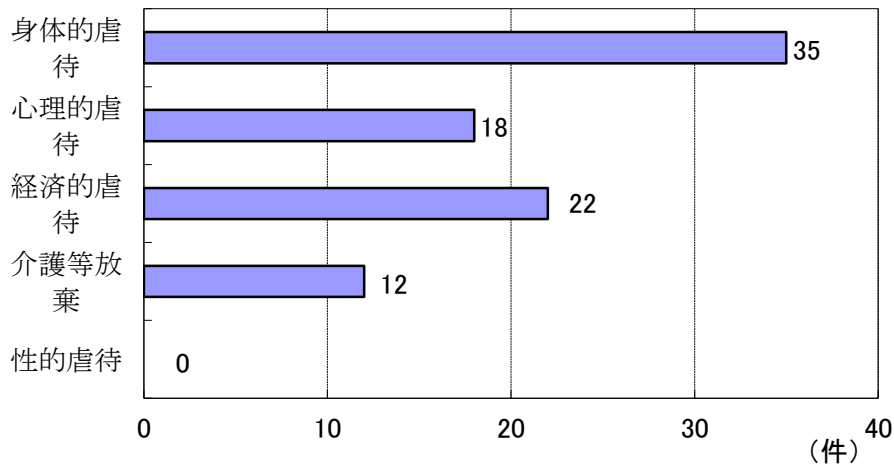


平成30年度の養護者による高齢者虐待の状況について

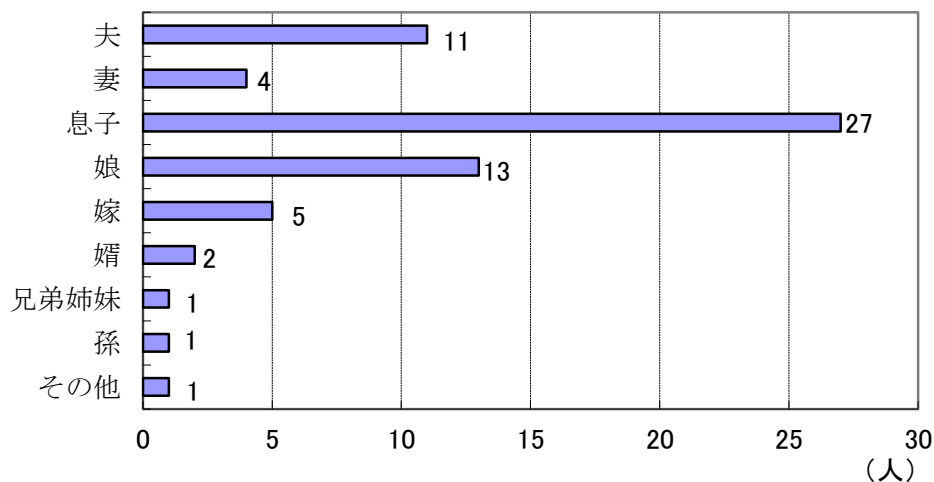
【事実確認により高齢者虐待の事実が認められた52件の状況】

(虐待を受けた高齢者56人の状況)

(1) 虐待の類型 (重複回答)

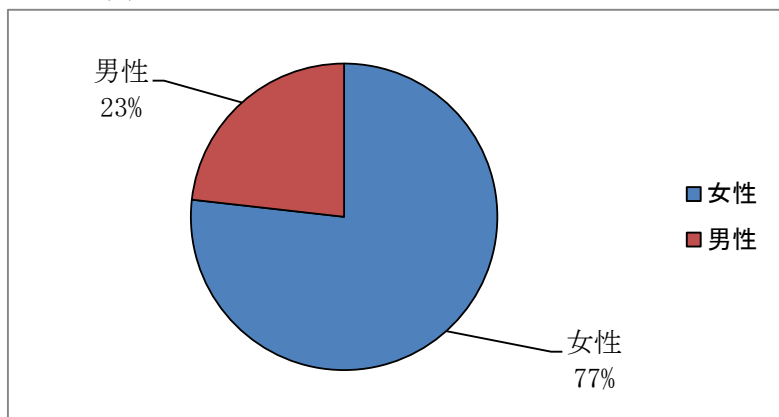


(2) 虐待を受けた高齢者と養護者との関係 (重複回答)

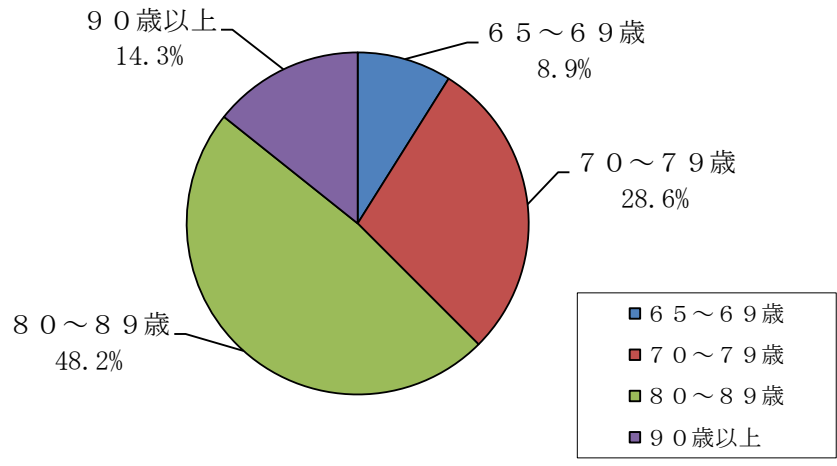


(3) 虐待を受けた高齢者の状況

① 高齢者の性別 n = 56人

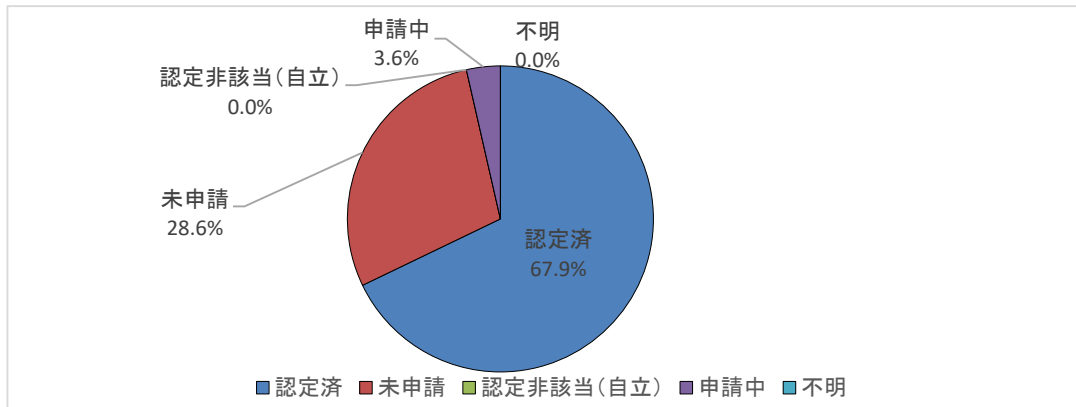


②高齢者の年齢 n=56人

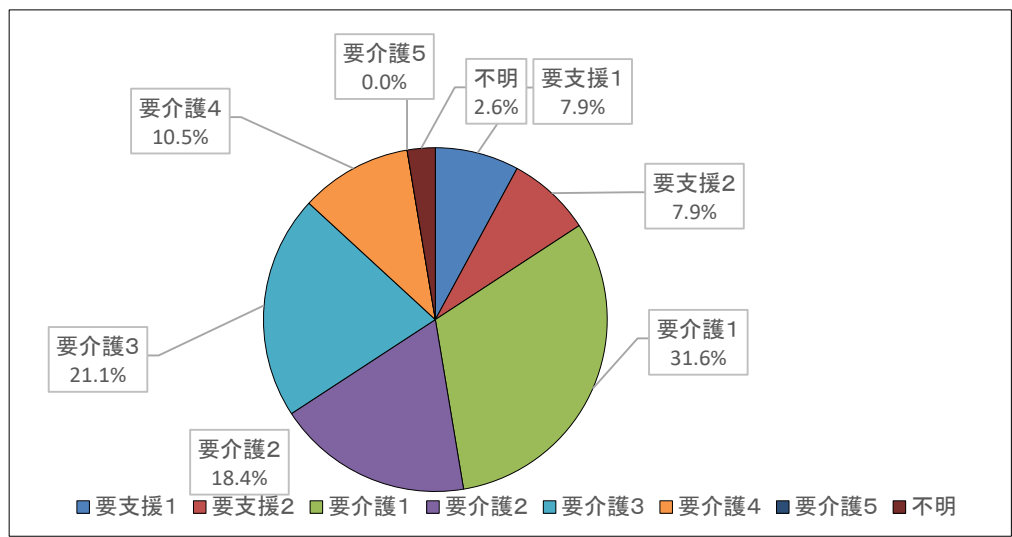


③高齢者の介護保険の申請状況

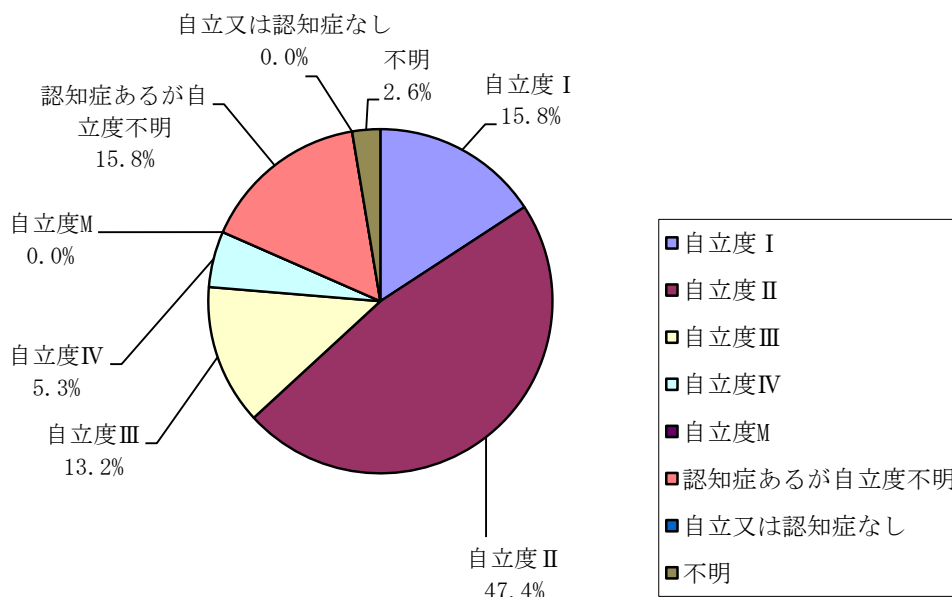
ア) 介護保険の申請状況 n=56人



イ) 介護保険認定済み者(38人)の要介護度



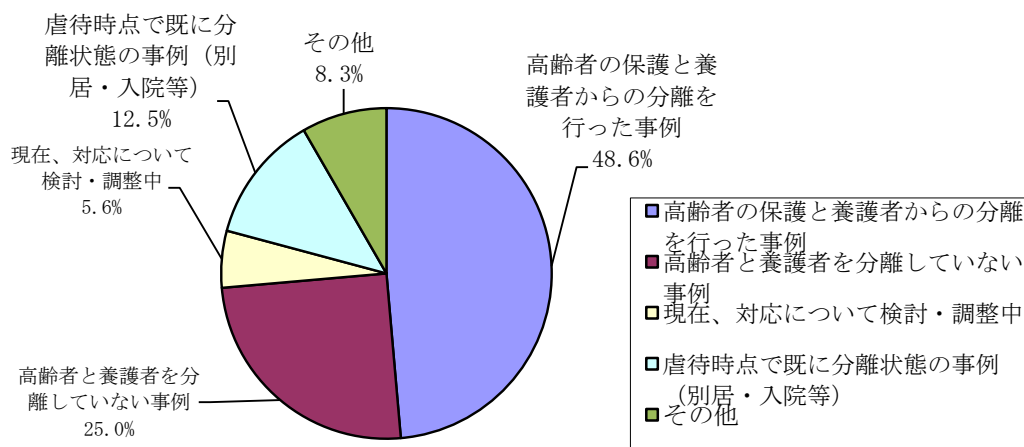
ウ) 介護保険認定済み者(38人)の認知症日常生活自立度



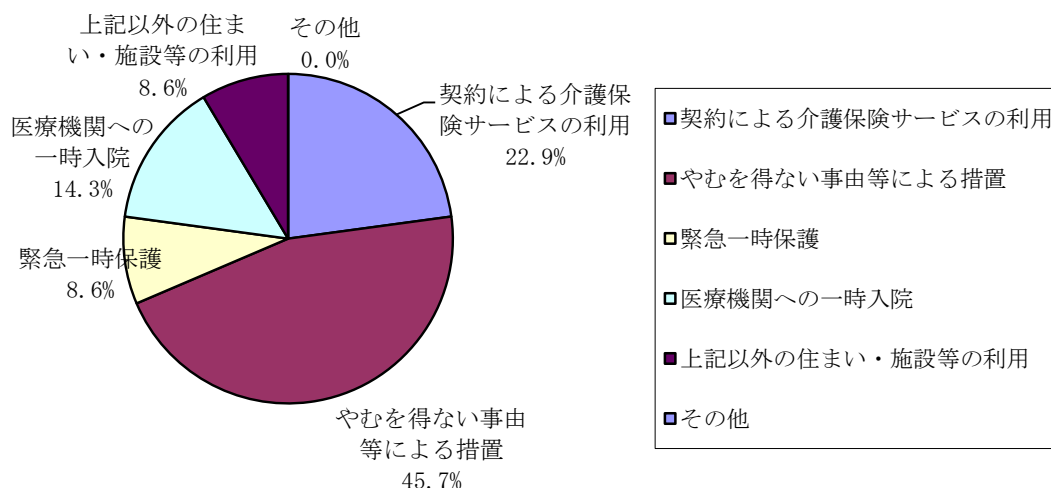
(4) 市町が行った虐待への対応策

① 虐待を受けた高齢者と養護者の分離状況 n = 72 件

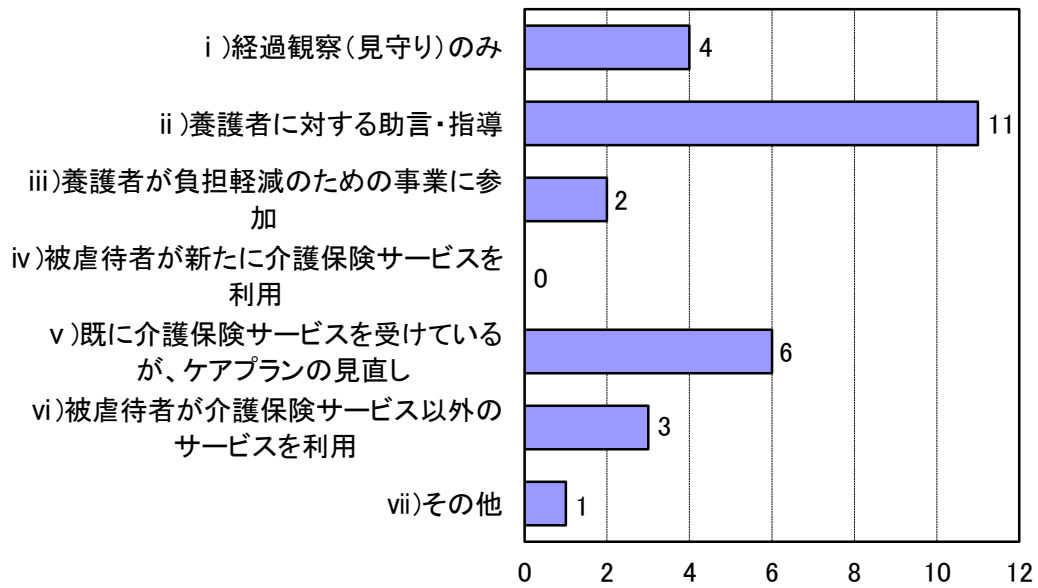
※(本年度調査以前からの継続事例も含めて全ての虐待判断事例における被虐待者について集計)



② 分離を行った事例 (35事例) の対応状況



③分離していない事例（18事例）の対応状況（「経過観察（見守り）のみ」を除き重複回答有）



【用語の説明】

高齢者：65歳以上の者

養介護施設従事者等による虐待：老人福祉法や介護保険法に規定されている特別養護老人ホーム・有料老人ホームなどの施設や訪問介護事業・通所介護事業などの居宅サービス事業の業務に従事する者による虐待

養護者による虐待：65歳以上の高齢者の世話をしている家族、親族、同居人などによる家庭内等での虐待

身体的虐待：高齢者の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴力を与えること
(例：なぐる・けるなどの暴力、動かないように縛るなど)

介護・世話の放棄・放任：高齢者を衰弱させるような著しい減食、長時間の放置、養護者以外の同居人による虐待行為の放置など、養護を著しく怠ること
(例：必要な介護（食事・身の回りの世話など）をしないなど)

心理的虐待：高齢者に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応その他の高齢者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと
(例：著しい暴言、拒絶的な反応、無視など)

性的虐待：高齢者にわいせつな行為をすること又は高齢者をしてわいせつな行為をさせること

経済的虐待：養護者又は高齢者の親族が当該高齢者の財産を不当に処分することその当該高齢者から不当に財産上の利益を得ること
(例：高齢者の財産（年金等）を不当に使用する、土地等を処分するなど)

認知症日常生活自立度：高齢者の認知症の程度を踏まえた日常生活の自立度をみるもので、介護保険制度の認定調査等に用いられている。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの5段階でⅠが軽度、Ⅴが最も重度となっている。